



2013.3.30-2013.3.31
In Kesenuma

気仙沼サポート Kesenuma Support
ICT講習会
日本ヒューレット・パッカード株式会社
hp

UP



A cartoon character with orange hair, wearing a blue cape and a blue shirt, holding a large blue arrow pointing upwards. The character is smiling and has a small cross on its forehead.

主催：日本ヒューレット・パッカード株式会社

共催：気仙沼市民活動支援センター

企画：特定非営利活動法人NPO事業サポートセンター

基本情報

【活動日】

2013年3月30日（土）～3月31日（日）

【活動地】

宮城県気仙沼市

- 岩井崎観光ツアーモニター（30日）
- ICT講習会（31日）
（支援活動をする人を対象とした講習会）
 - ビジネスコミュニケーション講座
 - ICTよろずサポート

【参加ボランティア人数】

日本ヒューレット・パッカード社員**12名**
（観光ツアーモニター・講習会）

【協力】

気仙沼市民活動支援センター（共催）
気仙沼市観光課
階上観光協会
気仙沼コンベンション協会



岩井崎観光 モニターツアー

2013年3月30日（土）

13:00 - 16:45



2013.3.30-2013.3.31

In Kesennuma

岩井崎観光ツアーモニター

【目的】

活動地（気仙沼市）を知る事で、今回の支援活動以上の繋がりを持っていただきたいと同時に、観光を体験したうえで企業（社会人）目線での提案をして頂く。結果として観光支援にも携わっていただく。

【内容】

気仙沼市の南部にある国立公園「岩井崎」での観光ツアーモニター。

- 岩井崎ガイドツアー
観光コンベンション協会 ガイド：畠山様
- 塩づくり体験ツアー
階上観光協会 会長：辻様 事務局：辻様
- 体験した内容に対してのワークショップ



岩井崎ガイドツアー体験

【内容】

国立公園である岩井崎のフィールドを観光。震災の爪痕残る岩井崎の各エピソードや震災前の様子など聞きながらツアー。



- 気仙沼出身の横綱
- 岩井崎の潮吹岩
- 震災後現れた龍の松
- 岩井崎のかつての姿
- なぜか浸水していない神社
など



塩づくり体験

【内容】

震災前に塩づくりを伝承していた遠藤伊勢次郎さん（震災で亡くなられた）の意志を受け継いで、塩づくり体験ホールが作られた。まだ、試験的な運営段階であるメニューを体験。



まき割り体験など経ての塩づくり。
塩分濃度3%ほどの海水を既に30%
まで上げたものを使用。
短時間でみるみる結晶となり、さらさら
の塩が完成。
全員がマイソルトを完成して、持ち帰る
事ができた。



ワークショップ

【内容】

体験したツアー内容を振り返り個人の感想と意見をまとめ、その後グループディスカッションした内容を発表した。



企業の方ならではの広い視野と多彩な角度からのアイデアが出た。

- 体験メニューについて
- 岩井崎というフィールドについて
- 提案したうえでの価格設定

どのアイデアも、観光協会にとって関心のいく内容であった。



ICT講習会

2013年3月31日（日）

10:00 - 16:45



2013.3.30-2013.3.31

In Kesennuma

ICT講習会

【目的】

気仙沼で支援活動をしている方を対象とした講習会を通して

気仙沼支援の方との繋がる場として

気仙沼支援をする方同士の場として

またその支援力アップに繋がるサポートを行う

【会場】

気仙沼市松岩公民館 研修室

【参加費】

コミュニティの場づくりを目的に、お昼は全員で過ごせるようお弁当を手配。

お弁当代を参加費として徴収（500円）

【機材】

ノートPC（日本ヒューレット・パッカード）

プロジェクター・プリンター

（気仙沼市民活動支援センター）



講習会参加人数

【ビジネスコミュニケーション講座】

合計9名

【ICTよろずサポート】

合計4名

【参加者所属情報】

- ✓ 気仙沼市民活動支援センター
- ✓ NPO法人アプカス
- ✓ 大谷まちづくり勉強会
- ✓ NPO法人ネットワークオレンジ
- ✓ ルーテル教会救援
- ✓ 気仙沼復興協会
- ✓ 気仙沼地域支援員
- ✓ デザインプラスアルファ



ビジネスコミュニケーション講座

【内容】

講座を通してコミュニケーションに必要な伝え方を学び、カタチ（チラシ）にすることで実践する講座。



hp社員がステップ毎に別れて講師を務め、また受講者と一緒に講座を受けながらのスタンスはコミュニケーションが活性化され、より近い関係で受講できる環境。午後のチラシ作成前には受講者でもあるデザインプラスアルファの佐々木様に、デザインについて講義していただいた。



ICTよろずサポート

【内容】

支援活動においてPCなどの不安や問題を解消するよろずサポート。



若者UPプロジェクトの課題を持つ方や、普段の業務で困っていた、分からなかった問題を解消。

直接PC操作に限らず、相手への伝え方なども相談されシミュレーションなどを行った。





成果/今後の課題



2013.3.30-2013.3.31
In Kesennuma



成果

◆気仙沼観光サポートUP

観光協会だけでは生まれなかったアイデア・企画を提言でき、強い関心を持ってもらえた。

◆参加者の気仙沼に対しての認識度UP

観光を通して生の被災地（気仙沼）を見て感じていただけたと思う。企業としてだけでなく個人としても関心を持っていただけたと思う。

◆受講者とのコミュニティUP

実際に気仙沼市で活動している方との繋がりが生まれ、お互いを認識するきっかけとなった。また、Facebookグループでの繋がりも出来た事は大きいと思う。

◆受講者同士のコミュニティUP

普段同じフィールドで活躍する者同士を繋ぐ場となった。同じ目的を持つ同士が繋がる事は、支援の効果促進にもなると思う。

◆受講者の支援力UP

今回学んでいただいた事は、普段の活動にも直結する内容であったと思う。



今後の課題

◆準備期間

調整期間が最終的には短くなってしまい、情報として不足があった。

また、提供側の情報共有も不足していた。

⇒スピードと共有力を高めたい。

◆サポート

欠席者が出た事により対応できない・提供できない面があった。

受講者に限らず、参加いただいたhpの方に対しても同様。

⇒保険を考えたプラン作成

◆タイミング

年度末というタイミングで、受講したくても受講できない方がいた。

また、商店街なども早閉めや休みが目立ち満足度を下げてしまったと感じている。

⇒時期による内部状況調査も行う



最後に

今回受講できなかつた方も少なくない状況でしたが、参加した方を通してより参加意欲が広がってくるものだと思います。また、継続した繋がりをもってこそ成果・効果は出てくるもの。

成果や効果は被災地（気仙沼）だけではなく、参加した方やその企業にとっても同様と思います。

支援する側にとっても、支援される側にとっても互いにとってプラスになる仕組みづくりを行い、復興や支援という言葉が消えた後も、繋がりのある関係づくりを目指したいと思います。

